



神奈川県立川崎図書館 が所蔵する  
全国有数の〈社史コレクション〉を  
さらに活用していただくため、  
社史の使い方や、社史の楽しさ、  
社史情報などをお届けしていきます。



今年6月に開催した社史フェア2017では、2016年刊行の社史、248点を展示しました。来場者には、コメントを添えて「気に入った社史」を投票していただきました。順位付けが主目的ではなく、皆様がどんなところに注目しているのかを知っていただくための投票です。

今回の「社楽」では、投票の結果発表と、記入していただいたコメントを紹介します。社史の注目されているポイントを知る一助になれば幸いです。

なお、コメントは読みやすくするために文章の一部を整えたものもあります。

1位は『雪印乳業史 第7巻』でした。雪印乳業では第1巻からほぼ同じ体裁で詳細な社史の刊行を続け、第7巻は事業を継承した雪印メグミルクからの刊行です。

投票用紙のコメントを見ると「最も注目されるのは、II部の食中毒事件と牛肉偽装事件の検証であろうが、それ以外にも商品紹介において、その開発の背景についても書かれているし、人事制度+経営計画についても詳しく記述しているなど、社史の多くに見られる記念誌的な役割には収まらない。〈雪印乳業の歴史を遺す〉という執念が感じられた。」「会社が起こした事件、

そして、その経過など忠実に描かれていて、会社としての姿勢を知ることができたとと思う。」や「過去の大きな失敗を隠すことなく検証し、世に出す姿勢に〈世に価値を与える気概〉を見る。このような

自社の成功も失敗も丁寧に整理する会社、それを出版する会社を応援したい。」など、過去のマイナス面と向かい合っている姿勢が評価されたようです。内容だけではなく、白地に黒文字の「装丁がステキで、読みやすいと思いました。誠実さが伝わる感じがしました。」というコメントもいただきました。

(2面につづく)

# 社史フェア2017、コメント発表

(1面からつづく)

2位は同票で3点あります。

寝具などの『西川450年史』。今回の展示の中では一番の老舗企業で、「とにかく長い歴史を貴重な史料と共にコンパクトにまとめている。」「450年という歴史を踏まえた文化的にも非常に貴重な資料。」など、歴史に関するコメントが多かったです。また「歴史編の構成が、本文は縦書き、図版やコラムが上段(後半は下段)に配置されていることですつきりと見やすく、読みやすいと感じました。装丁や見開きの質感が企業イメージと合っているように思いました。」「内容というより構成の仕方に特徴があると感じた。」など、装丁やレイアウト、構成を評価するコメントも目に付きました。

羽田空港ターミナルビルの運営などを行う日本空港ビルデングの『羽田空港ターミナル60年史』は、DVDのケースが飛び出す絵本風になっています。「ケースの立体空港模型が飛び出る絵本形式になっていることに、開いてびっくりしました。」「社史を受け取った社員自身が参加できるアイデアが良いと思った。また

社員が色を塗って再び本の扉を開いた時に味わえる感動も倍以上で、企業への愛着がより深まるのではないかと実感し、企画賞に値する。」「装丁が青(空)と白(雲)で、とてもさわやかで羽田空港らしいと思いました。これから旅に出る、ワクワク感。空を眺めて思い出す記憶、感情。社史でありながら見る者の思いに寄り添う、素敵な1冊だと思います。」などです。

製紙用の金網の事業で創業した『日本フィロン株式会社100周年記念誌』は「これでもか!というくらい、写真がたくさん掲載され、ビジュアルで見えて楽しく、社員が中心の社史として良いと思った。」「社員の集合写真、CGキャラクターによるナビゲーションなど、遊び心のある編集。」「手にとって見たくなる工夫がされている。」「他社との差別化。」など、ビジュアルな点を評価するものが多数でした。なお「社楽」70号では同社の社史編纂室の様子を特集しています。ぜひご覧ください。

3位も同票で2点あります。  
東京駅のホテル『東京ステーションホテルのあゆみ』には「ホテルそのものだけでなく建築やその他、多くの方面から読み深められる社史だと思います。」や「そこに息づく

く人々の歴史や大きく言えば日本(東京)の歴史を感じる一冊に仕上がっている。写真などもきれいで、心に残る一冊である。」「写真が多用されていて美しい。内容も充実している。」などのコメントをいただきました。

洋菓子店を展開する『エーデルワイス50周年記念誌』は「表紙デザインがダントツでかっこいい。中身も読みやすい。会長と社長が初めと終わりで向き合っている写真も継続を感じられていい。」「商品の美しい写真、作業・販売に関わる社員さんの現場の写真が豊富。」「社員さんの笑顔の写真が多かったのがポイントだと感じました。まるでお菓子のカタログを見ているような感覚!」などです。

順位の発表は、ここまでになります。投票総数174票は一部の社史に集中することなく、80点の社史に投じられました。社史は多彩な見方ができる資料であることを示す分布といえるでしょう。

以下、特色のあるコメントを、順不同に、なるべくたくさん紹介していきます。

カステラの福砂屋による『南蛮貿易とカステラ』：「コンパクトな大きさにも関わらず、文化的な視点からも社史を作っているがゆえ、内容が濃く面白い。」「いわゆる社史にあたるところを数ページに抑えている点もカステラに対するひたむきさが見えて良い。」「一つの会社の歴史を紐解くと、カステラの歴史になるところが面白いと思えました。」

多くのコンテンツをビジュアルに盛り込んだ『長崎電気軌道100年史』：「表紙が魅力的です。今と昔の比較もしていて面白かったです。」「車両の戸籍が載っていたり、昔から今までの詳しい運賃変遷があったり。写真がとて多いと感じた一冊でした。長崎に行ってみたいと思う一冊にもなりました。」

— その商品を食べなくなった、や、その土地に行ってみたくなくなった、などのコメントは時折、見られました。

秋田県の『由利高原鉄道株式会社30年のあゆみ』：「時代に合わせて時刻表の時間を変えたり、工夫をして集客に努めた、お客さん、相手があって成り立っている

と感じさせられる部分もありました。」「同じ女性を20年間にわたりモデルとして使ったという、長期的なコンセプトが凄い。」

— 社史の記述を見ることでわかる取り組みもたくさんあります。

表面処理などを手掛ける大阪の『百年の歩み 新免鉄工所』：「外装および現在の工場内の写真が美しい。現場のリアリティが伝わる感じがしました。」「工場内の写真に萌える。」

— 社史は（〇〇萌え）の方にも、読み応え、見応えのある資料だと思います。

種苗販売の『一粒のタネ タキイ種苗百年史』：「テーマ史が別章で設けられており、時代毎に切り分けてしまうと分かりづらい項目を、上手く見せる工夫が感じられました。」「第3部テーマ史では、まだ評価が定まらないもの、数字に表せないものをテーマで切り取って写真で見せることで、挑戦する雰囲気のない社風が伝わってきた。」

九州電力グループの『西日本プラント工業60年のあゆみ』：「製造業の社史は堅くなりがちだが、読みやすく、誌面展開と

企画の掘り下げが素晴らしい。完成度が高く、他社の人間が見ても歴史が面白く伝わった。」「誌面が写真や図をうまく並べられていて、キレイで見やすい。ゴチャゴチャ感がなく整理された印象です。」

工業デザインを手掛ける『株式会社ダイワ・エム・ティ100年の軌跡』：百年を記念した社員のポスターを図版で掲載し「巻末の部署ポスターを親しみを感じる。この本を作るのを楽しんでいるようで良い。」

— 今年の社史フェアでは、工夫をしたコーナーを設けている社史が目につきました。

広告や広報関係のアドバンドの『10年、10人、10歩のあゆみ』：「若い子が見ても楽しめる社史だと思いました。」「社員の方一人一人が紹介されていて、読んでいて面白かった。10年の歴史も分かりやすく、魅力的。」「さりげなく、育休中で休職の方を紹介し、福利厚生もちゃんとしている感を出されています。」

(3面から続く)

通信教育などの『創芸グループ50周年社史』：「通信講座の講師、受講生、職員の声に生き生きとしたものを感じた。全体的に楽しそうな社史でした。」「職員の独り言が面白い。アルバイトさんも集合写真で紹介していて、職員(社員)を大切にする姿勢が伺えて良い会社だと思えた。社風を垣間見ることもできるのだなと思った。」

インターネット関連のニフティの『The history of Nifty our network culture』：「IT企業として印刷メディアをどう使っていくかの一つの事例。」「働く人々の座右の銘の紹介から社風が感じられました。」『京阪百貨店30年のあゆみ』：「とりわけ他社の実名を出して記述する際の注意の払い方等が勉強になりました。」「企業理念をコンセプトに口絵では社員の笑顔で始まり、本文でも社員が多く登場し、まさに「人間愛」企業を感じられた。」

社史から社風が伝わってくるというコメントも数多く見られました。

ITを活用したサービスを展開する『トランスコスモス50年のあゆみ』：「年表部分の挟み込む仕様が珍しく面白い」「歴史を

ビジュアルで紹介する手法が秀逸。図版・年表のサイズを変えて挟み込むなんて！かつこよく考えられていると思います。」「字数も最初から最後まで読める程度ではないか。」

日本靴協会ランドセル工業会の『ランドセル130年史』：「ピンクの布張りが目立つ。」「色々なランドセルがあることを写真で分かりやすく紹介されていたところが気に入りました。」

ビジネス印刷などの『トッパンフォームズ SUCCESS STORY マンガ版』：「50年史との連動企画との事であるが、まず社員の興味を引くという点で面白い取り組みと思う。」「年史とは別に主要なストーリーをマンガで紹介していて、とても分かりやすかった。」

右のように装丁や読ませる工夫へのコメントは多数いただきました。一方、ビジュアルなものだけでなく本格的な社史へのコメントもたくさん記入されていました。

『日本経済新聞社140年史』：「丁寧な編集のあとが見える。これぞ社史という完成品だと思った。」「新聞社らしく、テーマごとにストーリーを語っていて読ませる。」

『野村総合研究所創立50年史』：「一見分かりにくい業務内容が経営史と事業史の両面から記述され、分かりやすかった。」

『明治安田生命十年史』：「合併後の十年史を丁寧にとめている。第2章の不払い問題に100ページを費やし、全体で600ページ強とボリュームが多いが、最近のビジュアル的な社史と違い、過去のオーソドックスな社史の作り方をしている。」「良くないことを100ページに渡って書いている点。是非しっかりと読みたい。」

いかがでしたか。今号で紹介できたコメントは一部ですが、皆様のご参考になれば幸いです。

(科学情報課・高田)

### ●お問い合わせ先

神奈川県立川崎図書館 科学情報課

〒210-0011

川崎市川崎区富士見2-1-4

電話：044-233-4537

FAX：044-210-1146

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>